

一般社団法人日本鉱物科学会  
2021年度第2回臨時理事会 議事録

【1】招集年月日：2022年3月13日(日)

【2】開催年月日及び時刻：2022年3月31日(木) 10時30分～12時11分

【3】開催場所：国立科学博物館総合研究棟4階 地学研究部長室  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1  
(Zoom Meeting によるオンライン会議)

【4】理事総数および定数：総数22名，定足数12名

【5】出席理事数：17名（オンライン会議参加）

宮脇律郎，大和田正明，安東淳一，阿部なつ江，井上 徹，池田 剛，磯部博志，  
鍵 裕之，片山郁夫，川本竜彦，栗林貴弘，黒澤正紀，辻森 樹，永井隆哉  
伴 雅雄，坂本尚義，吉朝 朗

【6】欠席理事数：5名(大藤弘明，河上哲生，土屋範芳，永嶋真理子，三宅 亮)

【7】出席監事：小暮敏博

【8】オブザーバー：(理事以外の幹事，委員長等報告事項報告者)

出席：森下知晃Elements幹事，高澤栄一和文誌編集幹事，JpGU選出プログラム委員 門馬綱一(正)，  
西原遊(副)，教育普及委員会 林信太郎委員長，新鉱物・命名・分類委員会門馬綱一委員長，  
博物館委員会坂野靖行委員長，IMA小委員会・学術会議連携会員：西山忠男委員長，  
日本鉱物科学会論文賞選考委員会 糀谷 浩委員長

欠席：日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会 川野 潤委員長，選挙管理委員会 則竹史哉  
委員長，中村佳博委員，遠藤俊祐委員

【9】議事概要

宮脇理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり，黒澤正紀理事が議長に選出された。  
黒澤議長から，2022年3月13日に理事会招集通知を行い，本日第2回臨時理事会を開催することにな  
った旨の報告があった。

次に，決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い，理事17名の出席を確認したので，  
定款30条により理事会が成立した。このことを受け，黒澤議長はWEB会議システム(ZOOM Meeting)  
を用いての理事会開会を宣言した。また，WEB会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が  
即時に他の出席者に伝わり，適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し，  
2021年度第2回臨時理事会を開始した。

会議に先立ち，理事の互選で黒澤正紀理事が書記として選出された。

## 1. 報告事項

### 1. 会長・副会長の職務執行報告（宮脇会長）

宮脇会長より、Elements誌加盟団体会長会議で、現在の国際情勢に対する声明を出す議論がなされており、当会の会長からの意見表明について、以下の通り報告がなされた。

当会としては、「JAMS（日本鉱物科学会）の主な目的は、性別、国籍、人種、宗教、政治的信条を問わず、科学者間の自由な意見と知識の交換を通じて、鉱物科学分野における知識の発展と成長を図ることである。JAMSは、すべての戦争行為を否定し、その使命と規約に従って、科学とその自由な開示に関係しないいかなる議論にも関与しない。人々の間に平和と調和が存在する世界においてのみ、これらの願いは実現されうる」との意見表明を行う予定である。

### 2. 会員報告（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より、2021年度第1回臨時理事会（2021年12月13日）以降の会員動静について、以下の通り報告がなされた。

退会者は14名（内訳：シニア会員2名、一般会員2名、学生会員10名）であった。2022年3月31日現在会員数は、834名（2021年12月13日）- 14（退会）で820名となった。

### 3. 渉外報告（永畷渉外幹事・理事：代読 黒澤庶務幹事）

永畷渉外幹事より、渉外活動について以下の通り報告がなされた。

- (1)2022年2月22日：日本郵政より「宝石切手」が発行された。日本宝石協会 宝石切手委員会より宮脇会長と白勢会員（写真採用者）に額装、写真提供者である6名の会員に切手シートが贈呈された。
- (2)2022年2月24日：（宮脇会長からの依頼にもとづき）内閣府共通意見登録システムを通じて「国際基礎科学年（IYMSSD2022）の協賛について」に一般社団法人日本鉱物科学会としての登録に対応した。

### 4. 行事報告（磯部行事幹事・理事）

磯部行事幹事より、行事活動について以下の通り報告がなされた。

今年の新潟大学での年會に際し、国際鉱物年に関連して、記念ロゴの表示等を検討している。また、2022年3月30日にZOOM會議を開催し、前半1時間は今年度の年會での発表講演投稿システム等の利用について行事委員会とLOC代表がアトラス社から説明を受け、後半1時間は行事委員会を開催した。それらを元に、またLOCの会場状況を踏まえて、年會実施形態でのハイブリッド開催、現地開催、完全オンライン開催に対する対応を更に行事委員会で検討中である。ご意見があれば、寄せてほしい。

### 5. Elements報告（森下Elements幹事）

森下Elements幹事より、Elements誌編集状況について以下の通り報告がなされた。

- (1)JPGUの案内原稿を準備中で、次号でのブリッジマナイトに関する原稿も中塚晃彦会員からの入構済み、次々号での小笠原諸島の海底火山「福德岡ノ場」からの軽石に関する原稿も吉田健太会員に依頼済みである。
- (2)Elements誌加盟学会の会長會議では、次期のPrincipal Editor選出の議論がなされている。

Elements誌本体の編集部にご参加いただける方は、至急、会長かElements幹事にご連絡いただきたい。こちらでも検討させていただく予定。

(3) Elements誌で「三波川変成帯」の特集を検討したいとの意見が出ている。関係の先生方にお声がけしたい。

## 6. 英文誌編集報告（吉朝英文誌幹事・理事：代理 永井副委員長・理事）

永井副委員長より、JMPSの編集状況について以下の報告がなされた。

(1)JMPS現状報告：1)編集状況：印刷中1編，査読中：7編，返却中：3編，3)発行状況：116巻5号(10月号)2022年2月7日発送，原著論文 4編，TECHNICAL NOTE 1編 合計42頁，116巻6号(12月号)2022年3月24日発送 原著論文 2編，Letter 2編，Index，Contents 合計52頁，4) 電子ジャーナル発行：117巻1号 Letter2編（印刷中，準備中）発行日未定。

## 7. 和文誌編集委員会報告（高澤和文誌幹事）

高澤和文誌編集幹事より，2021年12月13日に開催された第1回臨時理事会報告以降の状況と2022年1月17日および2022年3月23日に開催のGKK編集委員会について以下の報告がなされた。

### 1. 編集状況報告

(1)2022年3月28日までの報告：1)発行状況：51巻1号(電子ジャーナル早期公開中)：受賞紹介論文2編，資料他 1 編。2)現在受理論文：1編，3)現在査読中論文：2編。

(2)2022年中に51巻電子ジャーナル発行予定 .51巻1号(2022年3月中電子ジャーナル発行予定)：2020年度受賞者記念研究紹介，学会記事。51巻2号(2022年5月中電子ジャーナル発行予定)：2020年度受賞者記念研究紹介，2022年年会・総会のお知らせ，学会記事。51巻3号(2022年8月中電子ジャーナル発行予定)。51巻4号(2022年11月中電子ジャーナル発行予定)。

### 2. 編集委員会報告

(1)第2回編集委員会(2022年1月17日開催)：1)巻と号を付け，通常号は1号から開始し，Special Issueの号も設定することが承認された。2)通しページ番号の有無については保留とした。3)J-Stage Dataの利用を見据えて，J-Stageとの意見交換会を実施することが承認された。4)論文以外の記事(新刊紹介，学会記事，公募や学会開催案内等のニュース)をJ-Stageで公開しないことを決定した。5)小宮山印刷工業から当日提示された見積書について紹介がなされた。1号分(10論文)で231,000円。詳細について小宮山印刷工業との面談を今後行うこと，小宮山印刷工業以外の業者からも見積書を取り寄せること，学会の業務委託に関する情報も共有しつつ検討を進めることについて委員長から説明があり，承認された。6)現在のGKK投稿規定，編集規則には，岩石名・鉱物名の平仮名・カタカナ書きに決まりはなく，現状では著者の選択に委ねられている。今後，編集規定に盛り込む上で，日本鉱物科学会の鉱物科学に関する用語検討委委員会「直方晶系(斜方晶系)」への対応(平成28年10月28日付)が鉱物科学会としての見解に相当するのかどうか理事会に確認することとなった。7)コンテンツ充実のための方策として，日本語の1-2頁の依頼原稿を新たに設ける。博士号を取得した学生や学振特別研究員の研究成果，学会ポスター賞の紹介記事，若手の奨励賞の紹介記事，大学院生の研究室紹介や学会への参加報告などを想定。8)岩石鉱物科学の依頼原稿の各カテゴリー毎に原稿を集める担当を編集委員全員が数名ずつで分担することとなった。

(2)第3回編集委員会(2022年3月23日開催):1)通しページ番号を付けない案が承認された。2)2月9日に行った小宮山印刷工業との協議について説明し,3月9日に入手した小宮山印刷工業の見積もり書に基づき,年間10編発行した場合の経費を編集業務委託経費約25万円,電子ジャーナル作成およびJ-Stage搭載経費約50万円と見積もった。今後コンテンツ充実を考慮し,年間約80-100万円の予算が必要となることを確認した。委託先として小宮山印刷工業との契約締結に向けた協議を進める提案が承認された。3)依頼原稿の担当者をカテゴリー毎に3-4名ずつ割り振ることを改めて確認し,近日中に各委員に担当するカテゴリーの希望を照会することとした。

報告の後,JSTで運用が始まった日本語プレプリントサーバー(「Jxiv(ジェイカイブ)」:査読前論文の公開システムで個別のdoiが付く)の対応について質問があり,今後前向きに対応する方向で編集委員会でも検討するとの説明があった。これについては,JMPSでも説明会に出席するなど対応を始めているが,対応の進め方については今後検討したいとのことであった。Jxivは国外で既に運用されているシステムとは,査読コメントを得た後の修正版の扱いなどの部分で少し異なる形での運用となっているので注意が必要との意見があった。

#### 8. 教育普及委員会報告(林教育普及委員会委員長)

林教育普及委員会委員長より,2022年3月21日開催の教育普及員会について以下の報告がなされた。

(1)中学校理科教科書の鉱物名表記:教科書には7種類の鉱物が記載され,その表記には漢字表記のものとカタカナ+石の2種類があり,この状況は高校受験を控える中学生にとって悪影響がある。鉱物名表記の状況を調べるため,学術用語集や鉱物科学会の文書,近年(2018年-2021年)の岩石鉱物科学の論文でチェックした結果,カンラン石には4種類の表記(カンラン石,かんらん石,オリビン,オリーブ石)があった以外は漢字表記であった。そこで,教科書に掲載の7種の鉱物(カンラン石,輝石,角閃石,黒雲母,磁鉄鉱,石英,長石)について,(A)正式な和名の表記法の案と(B)教科書会社への提案を分けて検討した。(A)は,カンラン石以外は漢字表記が基本と考えるが,鉱物科学会での正式な検討が必要である。カンラン石の4種類の表記法については,日本鉱物科学会「鉱物科学に関する用語検討委員会」の「直方晶系(斜方晶系)」への対応での「鉱物名の方針案」を基準とすると,この4種類とも合理性を持つように思える。理事会での検討をお願いしたい。(B)は,現在委員会で検討中で,今後理事会に提案する予定。現時点では,カンラン石,輝石,角閃石,黒雲母,磁鉄鉱,石英,長石の用法が有力だが,角閃石の「閃」は当用漢字でないので「セン」とする可能性もある。今後教科書会社とも内々に議論する予定で,「鉱物科学会の推奨する中学校理科教科書での鉱物名の表記法」を理事会に提案したい。(参考)鉱物名の和文表記の歴史の概略:1)日本鉱物学会評議員会(1955):「“石”と“鉱”のみを漢字とし,他は全部カタカナを用い新かな使いとする。」(カタカナ表記)。2)「学術用語 地学編」文部省(1984):「“石”と“鉱”のみを漢字とし,他は片仮名で書くが,平易な漢字が慣用されているものも併記」(漢字,カタカナ併記)。3)鉱物科学に関する用語検討委員会答申(2015):「和名では,学名由来に対応する漢字が当てられる場合(漢字文化圏の地名や人名など)はそれを用い」(基本は漢字表記;多様な表記を許容しているように見える)。

(2)鉱物科学会会員の教育普及活動例の収集:現在,教育普及活動例を収集している。JOGMECの高校生を対象とした「金属資源講話」,milisil(国立科学博物館の情報誌)の「鉱物の世界を楽しむ」シリ

ーズ、林会員による秋田魁新報こども新聞への連載など、25例を発見した。他にもあれば、ご連絡をお願いしたい。

報告の後、カンラン石については、地質学会が公開している地質学用語集や鉱物科学会監修の鉱物・宝石の科学事典では、ひらがなで表記されているとの意見があった。この件について、辞典では、外来語はカタカナ表記を基本とするが、外来語でも慣用的に漢字を使っている名前については漢字表記としている。カンランは外来語ではないので、ひらがな表記になったとの説明があった。また、JIS規格のような他領域での用例も参照した方が良いこと、教育上、当用漢字で表記できないものはひらがな表記が望ましいこと、多数の鉱物名を列記する際はカタカナ表記が読みやすいこと、一般へのプレゼンではひらがな表記よりもカタカナ表記の方が伝わりやすいことなどの意見があった。教科書会社への提案とも関連するので、この件については、鉱物科学会として推奨する和名の検討をお願いしたいとの意見となった。この検討は、和文誌編集委員会との合同で用語検討委員会などを設けるのが適当とのことになった。

#### 9. 博物館委員会報告（坂野博物館委員会委員長）

坂野博物館委員会委員長より、2021年12月14日と2022年3月2日に開催のIMA博物館委員会ビジネスミーティングについて以下の通り報告がなされた。

ビジネスミーティングには委員長が出席し、国際会議M&M10(2024)開催地選定方法を議論した。選定方法に関するガイドラインの可否投票が行なわれ、ガイドラインは正式に締結された。それに従って英国と中国から開催立候補の提案書が提出された。その後、博物館委員会でそれらをメールベースで検討し、英国に投票することを決めた。国際投票の結果、次回開催地は英国となった。

#### 10. 名誉会員等検討委員会報告（鍵名誉会員等検討委員会委員長・理事）

鍵名誉会員等検討委員会委員長より、名誉会員等に関する検討委員会からの答申が以下の通り報告された。

2021年12月24日と2022年1月11日のオンラインでの会合と、その後、メールでの審議を踏まえて下記の答申(2022年1月24日付)をまとめた(委員長：鍵 裕之理事，委員：安東淳一理事，阿部なつ江理事，井上 徹理事，池田 剛理事，大和田正明理事，永井隆哉理事，永嶋真理子理事，吉朝 朗理事)。

(1) 名誉会員はホームページなどを活用して学会内外に周知すべきである。

(2) 名誉会員とは何か：本学会の定款にあるとおりで、「鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し特に功労のあった者の中から理事会において承認を得た個人。」で問題はなく、このままで変更の必要はない。

(3) 名誉会員の適正な人数：定款にあるとおり、本学会員の中でも特に顕著な学問上の業績や学会への貢献があった者が名誉会員であるため、必然的に名誉会員の人数は限られる。名誉会員の選出を発議する際の目安にもなるので、名誉会員の人数には上限があることが望ましい。地球惑星科学関連学会の会員数と名誉会員数を調査したところ、会員数に占める名誉会員の割合は平均1.3%であった(現在の鉱物科学会は1.1%)。名誉会員に厳密な定員を設けることは適切ではないし、時期によって多少の変動はあるが、概ね1.5%前後、多くても2%未満を目安にしてほしい。現状の鉱物科学会

の会員数が当面維持されるようであれば、名誉会員の上限は10人から15人程度となる。

(4)名誉会員推薦委員会内規の 3.(設置)と 5.推薦基準および 6.(候補者検討)の条には見直しの必要がある。

<現行>

「3.本委員会は、理事会から名誉会員の推薦について諮問された場合に設置される。」

諮問の内容が不明瞭であるため、以下のような改定を提案する。

<改定案>

「本委員会は、理事会から名誉会員候補の推薦を行うように諮問された場合に設置される」

とすべきである。昨年の選考過程では、理事会が名誉会員候補のリストを作り、名誉会員推薦委員会がその内容について諮問を行った。3条は6条とも関連するが、諮問という言葉が十分な説明がなく使用されているため混乱を招いた可能性がある。

<現行>

「5.本委員会は、次に掲げる基準のいずれかを満たす者を名誉会員として理事会に推薦することができる。

(1) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、国際的な賞を受賞した者

(2) 上記(1)に準ずる賞を受賞した者

(3) 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において、世界的に顕著な業績をあげた者

(4) 本会に対し特に功労のあった者」

上記の基準そのものに問題はないが、選考にあたっては名誉会員に相応しい顕著な業績、顕著な学会への貢献を厳しく評価すべきである。国際的な賞であれば例えばIMAでの受賞、本会に対する功労であれば例えば会長やジャーナルの編集長などの重責な任務の経験を目安とすべきである。また、可能な限り学会員である者が望ましいが、会員外でも本会の名誉や価値を著しく向上させる者も対象となりうる。

<現行>

「6.本委員会は、理事会から諮問された名誉会員候補者が、上記5に掲げる基準を満たしているかどうかについて検討し、その結果を理事会に答申する。基準を満たしている場合は、推薦理由書を添える。」

次項で述べる選考手続きの変更に伴って改訂する必要がある。

<改定案>

「本委員会は上記5に掲げる基準を満たす名誉会員候補を検討し、選出された候補者を理事会の審議に付す。」

(5)選考過程の見直し：選考過程を以下のように見直すことを提案する。

会員幹事を中心とする執行部は、名誉会員の適正な人数を参照しながら名誉会員を追加すべき適切な時期に、名誉会員の選考ならびに選出すべき名誉会員の人数を理事会に提案する。

理事会は、選出すべき名誉会員の人数が適切であるか審議する。名誉会員の追加が認められた場合は、名誉会員推薦委員会を立ち上げる。

名誉会員推薦委員会は理事会で認められた人数の名誉会員候補を選出し、理事会に推薦する。理事会で名誉会員推薦委員会から推薦された候補を審議し、名誉会員を決定する。

(6)変更が生じる場合、実施日程と会員への周知方法：理事会で審議の後、可能であれば2022年9月の総会で新しい名誉会員を授与できるように選考を進めてほしい。(註：総会での授与式開催の規定はない)

(7)その他に委員会で出た意見：1)これまでの名誉会員の選考では75歳以上を一つの目安にしていた。年齢にしばられる必要はないが、目安として有効である。この年齢の目安よりも永年会員の資格(80歳以上)の方が厳しくなっているのは改善の余地がある。2)名誉会員の問題とは別に、年長の会員が退会せずに学会員を続けられるような措置を考えてほしい。永年会員の資格(註：会員歴20年、80歳以上)を会員歴40年以上または70歳以上に緩和することなどが考えられる。また、定職に就いているうちにある程度の会費を前払いして、生涯会員になれるような制度も検討してほしい。3)名誉会員・永年会員は会費無料であるため、学会の財政に負担をかけるという見方もできる。今後、電子化などで学会経費をスリム化し、多くの会員に残っていただけるような運営を考えてもらいたい。本委員会では名誉会員の人数の上限を提案したが、財政的な問題から人数に制限をかけるのではなく、顕著な業績、功績を残した方を選ぶという意味で人数に制限がかかると考えるべきである。4)名誉会員を選考する過程で公募に準ずるようなプロセスはそぐわないのではないかと、少人数の名誉会員推薦委員会で候補者を慎重に議論してほしい。5)名誉会員とは別に、ノーベル賞級の研究者、あるいは、鉱物科学の認知度を著しく上げることに貢献した人物を対象とする特別名誉会員の創設も将来検討する必要があるかも知れない。

以上の報告の後、当委員会答申の中で提案された名誉会員推薦委員会内規改正等を細則等検討委員会に諮問することを提案するのが、今回の第2号議案であるとの説明があった。また、名誉会員推薦検討の提案を理事会に発議する母体について確認したいとの質問があり、今年度の名誉会員推薦手続きについては、5月の定例理事会で細則等検討委員会から名誉会員推薦委員会内規等の改正の諮問結果が報告され、それを受けて、現理事である会員幹事が中心となって名誉会員推薦の検討を開始したい旨の発議がなされるのが最速の予定となるとの説明があったが、会員幹事が理事でない場合も想定して名誉会員推薦委員会内規を検討した方が良いこと、総会での表彰式の規定はないので、必要であれば、それも規定として検討した方が良いとの指摘があったので、これらも含め細則等検討委員会に諮問することになった。

## 12. 財政、雑誌・編集、事務局体制再建に向けた検討報告(大和田副会長)

大和田副会長より、これまで雑誌の編集・刊行体制についての議論を進めており、詳細は議案でも述べられる通りで、電子ジャーナル化については既に実施となっており、今後は事務局業務委託も併せて検討を進めるとの報告がなされた。

## 13. その他の報告

### (1) 各賞選考委員会・選挙管理委員会状況報告

日本鉱物科学会賞選考委員会報告(井上日本鉱物科学会賞選考委員会委員長・理事)

研究奨励賞選考委員会報告(河上研究奨励賞選考委員会委員長・理事)

論文賞選考委員会報告(梶谷論文賞選考委員会委員長)

渡邊萬次郎賞選考委員会報告(伴渡邊萬次郎賞選考委員会委員長・理事)

日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会報告（川野応用鉱物科学賞選考委員会委員長）  
各選考委員長より，推薦状況や選考状況の報告がなされた（研究奨励賞と応用鉱物科学賞の状況は黒澤庶務幹事が代読）。

(2) 役員選挙状況報告

選挙管理委員会報告（則竹選挙管理委員長）

会長・副会長候補者推薦委員会報告（磯部委員長・理事）

磯部委員長より，候補者推薦の状況が報告された。選挙管理委員会の状況については，黒澤庶務幹事が代読して報告された。

(3) その他：特に無し

## II. 審議事項

### 第1号議案 新入会員承認の件（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より，学生会員1名(記載省略)の入会が紹介され，異議なく入会が承認された。この結果，2022年3月31日現在の会員数総数は，2021年12月13日の第1回臨時理事会(834名)より13名減少し，821名(820名+入会1名)となった。

### 第2号議案 名誉会員推薦に関する改正等を細則等検討委員会に諮問する件（宮脇会長）

宮脇会長より，名誉会員等検討委員会の答申の中で提案された幾つかの名誉会員推薦委員会内規等の改正案について，細則等検討委員会に諮問したいとの提案がなされた。なお，名誉会員とは別途に，永年会員等の資格・制度についても検討してはどうかとの意見があったが，今後，順次見直しを進める方向で検討したいとのことになった。審議の後，異議なく承認された。

### 第3号議案 GKKの2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について （大和田WG委員長・理事，高澤GKK編集委員長）

大和田WG委員長・副会長より，2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について，小宮山印刷工業株式会社へ委託するとの提案がなされ，見積書の検討など選定の経緯についての高澤編集委員長による説明の後，異議なく承認された。

### 第4号議案 JMPSの2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について （大和田WG委員長・理事，吉朝委員長代理：永井副委員長・理事）

大和田WG委員長・副会長より，2023年1月からの電子ジャーナル作成請負契約先と編集業務委託先について，小宮山印刷工業株式会社への委託を第一候補として検討を進めたいとの提案がなされた。その後，永井副編集委員長より，下記の検討結果の説明がなされた。

2023年1月からの印刷(請負契約)と編集業務委託(準委託)契約についての説明：小宮山印刷工業と国際文献社から電子ジャーナル化とJMPS編集委託費についての見積書を取り，詳細について，委員長，副委員長，大和田WG委員長，事務が参加するインタビューを2社に対して実施し，内容を検討した。結果，JMPSでは，本件を編集幹事案件として編集委員会にまだかけていないが，上記2社いず



れであっても，国内外からの投稿の受付から査読，編集，J-Stageでの公開へのプロセスは，現在から大きく変更することなく維持できると判断した．但し，金額的な面では小宮山印刷工業が若干良い条件であり，これまでの繋がりもあることから，来年度に向けて，今年度準備していく作業等がスムーズであろうという判断もしている．最終決定や契約については，GKKの編集委託先との兼ね合い，将来的な事務局体制などとあわせ執行部・理事会での総合的な判断をお願いする．なお，小宮山印刷工業では，現在下記等の英文の学会誌を出版しており，Editorial Managerシステム(英語版)や Scholar One Manuscripts(英語版)を利用した編集業務も実施しており，自社運営の投稿サイトも開発中で現在テスト運営中であること，海外からの投稿に対する英語メールでの対応も可能であるとのことである．

日本衛生学会 Environmental Health and Preventive Medicine  
電気化学会 Electrochemistry  
日本金属学会 MATERIALS TRANSACTIONS、日本金属学会誌  
日本学士院 Proceedings of the Japan Academy, Ser. A,B  
日本セラミックス協会 Journal of the Ceramic Society of Japan  
日本物理学会 Journal of the Physical Society of Japan  
日本化学会 Bulletin of the Chemical Society of Japan、Chemistry Letters

また，JMPSは現在1ページ当たり6000円のページチャージを徴収し，全体として年間約200万円弱の収入を見込んでいる．作成・編集・印刷の委託経費の見積額としては300万円弱であるため，差し引き100万円程度が学会からの支出分となる．学会誌としての性格上，この支出分はご承諾いただきたいとの説明があった．以上の説明の後，議案は異議なく承認された．

### III. その他：特に無し

以上の議事を終え，12時11分に閉会した．

上記の決議を明確にするため，出席した会長，副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和4年(2022年)4月15日

会 長 宮脇 律郎 印

副会長 大和田 正明 印

監 事 小暮 敏博 印  
(配布時押印省略)